

防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI

～継続は力なり～ 地域と学校の協同防災訓練

●日頃の防災教育が実を結ぶ

平成23年3月11日に発生した東日本大震災大津波で被災した宮城県釜石市にある釜石東中学校では、避難訓練を年3回、応急手当や防災マップ作成等の防災教育を毎週1時間おこなっていました。

また、過去の津波を体験した地域の方を招いて講演会をおこなったり、避難時に避難先を書いて掲示する「安否札」を生徒が発案し、地域の高齢者に配布したりと日頃から地域と一体となった防災訓練に取り組んでいました。

このような取り組みをおこなっていた結果、未曾有の大災害に遭遇しながらも津波による犠牲者を出すことなく、中学校からの避難に成功しました。

このことは、日頃の防災訓練の成果であったといえます。まさに「継続は力なり」の言葉通りの結果でした。

●地域と学校の協同防災訓練

灘区では1月17日の「市民防災の日」に合わせ、各防災福祉コミュニティが校区内の小学校と、協同で防災訓練をおこなうといった取り組みが多く見られました。

その中で、原田防災福祉コミュニティ及び

上野防災福祉コミュニティが連携し、福住小学校と協同でおこなった訓練を紹介します。これは、地震を想定した避難訓練や水消火器取り扱い訓練、バケツリレー、小型動力ポンプ放水体験、煙体験ハウス、担架搬送訓練などの多種多様な訓練を児童たちの学年にあわせておこなうといったものでした。

防災福祉コミュニティや消防団員が中心となって指導し、子どもたちも友達と協力して真剣に訓練をおこなっていました。

防災福祉コミュニティの方も、子どもたちを対象に防災訓練をする機会が少ないからか、指導の際にも一層熱がこもっていました。

また、訓練当日が参観日と重なっていたこともあり多数の保護者が見学を訪れ、一緒に訓練をされている熱心な方もいました。

今回のように地域と学校が協同で防災教育や防災訓練に取り組むことは、子どもたちが災害の被害に遭わない街づくりをおこなうためにも、非常に重要です。

どのような災害が襲ってきても負けない街をつくるために、このような地域と連携した防災訓練を継続しておこなっていきましょう。

(灘消防署 寺岡篤史)

